

平成28年度 学校評価報告書（実施結果）

項目	視点	4年間の目標 (28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①基礎・基本の確実な定着と学習意欲の向上、進路希望の実現に繋がる生徒主体の授業を実践する。</p> <p>②県立高校改革（I期）の教育課程研究開発校（新科目「公共」）として研究開発を行う。</p>	<p>①生徒主体の学びを実現する授業研究を推進し、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。</p> <p>②新科目「公共」の研究開発をスタートさせる。</p>	<p>①すべての教科で生徒が主体的、協働的に学ぶ授業を実践し、学習到達度の向上を図る。</p> <p>②研究推進組織を立ち上げ、研究計画を推進する。</p>	<p>①すべての授業で、生徒の主体的・協働的な学びの場面を設定できたか。学習到達度は向上したか。</p> <p>②これまで取り組んできたシチズンシップ教育の成果と課題を整理し、新科目「公共」との関連をまとめることができたか。</p>	<p>①・今年度は2回授業研究を実施した。1回目は「ICTの利活用」、2回目は「アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業づくり」をテーマとした。教材研究や授業展開、発問などに他の教員も参考となる実践が見られ、受け身になりがちな本校生徒たちの学習態度をより主体的なものに変える一助になった。また、3月に研修会を開催し、次年度に向けた目標設定のヒントを得るよい機会となった。</p> <p>②・本校で積み重ねてきた「シチズンシップ教育」を継続し、多くの外部機関の協力を得て、生徒にとって貴重な体験等の機会が得られた。</p> <p>・その成果と課題をまとめるとともに、新科目「公共」との関係について検討した。外部の研修会等にも積極的に参加して、得られたものを校内の研究推進に生かすことができた。</p>	<p>①・1年の英語や2年の数学で行っている「習熟度別小集団学習」などをもっと活用して、主体的・協働的な学習活動の活発化と学習内容の深化につなげる必要がある。</p> <p>②・中教審の答申が出されて新科目「公共」の概要が明らかになったので、その内容として適する新たな実践例等の検討をする。</p> <p>・これまでの実践例については「総合的な学習の時間」としての評価方法はあるが、新科目「公共」としての「評価の観点」「評価規準」等について研究する必要がある。</p> <p>・他校への情報発信、他校との情報交換も充実させる。</p>	<p>①・教科指導のレベルアップは重要である。ベテランのノウハウを若手に伝えたり、若手のチャレンジ精神を生かして、アクティブラーニング等の授業改善の取組みを進めるとよい。</p> <p>・習熟度別学習では、生徒も熱心に取り組んでいる。一斉授業の形式では落ち着いてまじめに取り組んでいるが、集中を欠く生徒もいるので、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>②・シチズンシップの取組みでは、学校への理解を深めるためにも保護者向けの研究発表会なども企画するとよい。</p>	<p>①・組織的な授業改善の一つとして、アクティブラーニングの視点を踏まえた授業を展開するようになり、学び合いや言語活動の充実につながった。教員間、また教員と生徒間で目標を共有して、学力向上や進路実現で成果を上げられるよう今後も継続する。</p> <p>②これまでのシチズンシップ教育を継続し、生徒にとって貴重な学習の機会となった。その成果と課題をまとめ、新科目「公共」の研究に繋げる。</p>	<p>①年2回の研究授業・公開授業や校内研修会は定着したので、内容を深化させて教科指導力の一層の充実を図る必要がある。</p> <p>②新科目「公共」の研究開発については「評価規準」の作成等についてさらに研究を進める。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①安心して学べる学校づくりを推進し、自己肯定感・他者理解・規範意識の伸長を図る。</p> <p>②部活動の活性化を図り、協調性や連帯感を図る。</p>	<p>①安全で安心な教育環境を確立し、生徒一人ひとりの人間的な成長を支える。</p>	<p>①日々の生活指導で基本的な生活習慣の確立と、教育相実により、課題のある生徒への支援を組織的・継続的に行う。</p>	<p>①効果的な生活指導が実践できたか。また、ケース会議等の取組が課題のある生徒への支援に生かされたか。</p>	<p>①・服装頭髪指導、遅刻指導を重点に、「説得・納得・理解」をモットーに粘り強く取り組んだ。指導後に改善が見られるが、繰り返す指導対象となる生徒も少なくない。</p> <p>・通学途中でのマナーや公共心について地域の方の指摘や、学校周辺での不審者情報など迅速に対応した。</p> <p>・特別指導となる案件は例年同様数件である。主に器物損壊等で、事後指導は適切にできている。</p> <p>・また、課題のある生徒への対応も、担任・養護教諭・教育相談コーディネータを中心に丁寧に対応し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等外部の方の協力も得て最大限の支援をした。</p>	<p>①・職員全体で共通理解を深めて、生徒への指導・支援の充実を図り、保護者との連携や地域との協力を進め、安全安心な学校生活の充実につなげていく。</p> <p>・不登校等課題解決に至らない場合が多いので、教育相談態勢の一層の充実や、スクールカウンセラー等の活用により、今後も粘り強く生徒を支えていく。</p> <p>・学習活動や部活動の一層の活性化により、生徒たちの社会性・協調性を伸ばし、学校生活を充実させるという視点も重要である。</p>	<p>①・不審者対策として、歩行中の両耳イヤホンや歩きスマホも含めて「命を守る指導」を行う必要がある。また、外部の方が来校する行事での服装・頭髪なども指導を徹底していただきたい。</p> <p>・不審者対策では、地域・警察との緊密な連携を、また、課題のある生徒への対応では中学校との連携・協力も視野にいれるとよい。</p> <p>・教室や階段の清掃が不十分なので、清掃指導の徹底を図ってほしい。</p>	<p>①・職員全体の共通理解のもと、生徒への指導・支援の充実を図ることができた。服装・頭髪指導、遅刻防止指導は粘り強く取り組んでいく必要がある。</p> <p>・安全・安心な学校生活のために、不審者対策等については生徒の自覚を高めるとともに、保護者との連携や地域との協力を進めていく必要がある。</p>	<p>①・教育相談コーディネータの複数化やSC等の活用により、不登校等の課題に適切な対応をする。</p> <p>・学習活動や部活動の活性化により、生徒たちの学校生活を充実させるという視点を踏まえて取り組む。</p> <p>・清掃活動の充実は、HR指導の重点課題とする。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>①キャリア教育実践プログラムの充実を図り、生徒のキャリア能力を育成する。</p> <p>②ガイダンスを図り、進路希望の実現を支援する。</p>	<p>②3年間を見通した進路指導計画に基づいた指導を行い、進路選択意識の向上と進路希望の実現を支援する。</p>	<p>②模擬試験や各種ガイダンス、インターシップ等の意義の理解を深め、進路選択に積極的に活用するよう指導する。</p>	<p>②進路指導計画に基づいた指導ができたか。また、模擬試験や各種ガイダンスを進路選択に活用できたか。</p>	<p>②・総合的な学習の時間などでの課題解決学習や各種ガイダンスを通して、探究心や発信力の伸長を図るとともに、将来の目標の設定に資する取組みができた。</p> <p>・外部講師による進路講演会、上級学校講座やインターシップなど高大・高専連携による事業や地域の教育力を活用して、進路選択、職業選択の意識の向上を図ることができた。</p> <p>・実力テスト実施後に教員対象報告会を実施し、キャリアカウンセリング・進路指導、教科指導の振り返りに生かすことができた。また、生徒対象の実力テスト結果分析報告会を開催して学習習慣の見直しに生かすなどの意識改革・動機付けにつなげた。</p>	<p>②総合学習の時間だけではなく、関係する各教科の授業と連携して、キャリア形成に対する取組みを行う必要がある。また、将来への展望をなかなか描けない生徒たちも少なくないので、その指導が課題である。</p> <p>・報告会などを充実させインターシップへの参加者の増加を図り、生徒自身による自己実現力の向上に向けた取組みの充実を図る必要がある。</p> <p>・保護者への学習や進路に関する情報提供等の改善に努め、保護者の協力も得て進路指導の充実を図っていく。</p>	<p>②・模擬試験やガイダンス、高大連携事業等により、生徒の意識が高まり進路希望が実現されている。</p> <p>・保護者対象進路説明会や個人面談は実施されているが、進路実現の取組みにおいて保護者やPTAの一層の理解・協力を得るための方策が必要である。</p> <p>・授業時間数の確保も大切であるが、学校行事等で生徒が自主的に活動し、キャリア形成に生かす機会も大事にしてほしい。</p>	<p>②・各種ガイダンスや面談等の開催、またシチズンシップ教育、キャリア教育の取組みは、生徒の視野を広げ、進路選択・学習意欲の向上に繋がっている。今後も一層内容の改善等を図っていく。</p> <p>・卒業生の進路（大学受験の結果等）は、数年前に比べ、第一志望の実現という点で改善している。今後も充実させていく。</p>	<p>②「目標設定届」なども導入し、早い段階での進路目標・学習目標の明確化とその実現に向けた計画的学習を実践する力の向上を図る。</p> <p>・実力テストの結果を活用した個人面談等を充実させ、進路選択の意識の向上に結びつける指導をする。</p> <p>・インターシップへの参加者は倍増をめざす。</p>

項目	視点	4年間の目標 (28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>① 広報活動を充実させて本校への理解を深化を図り、信頼される学校を進める。</p> <p>② 地域等との連携を一層強め、地域の教育力を生かした取組を進める。</p>	<p>② 地域等との交流や連携した事業を通して、生徒の経験値を上げ、公共心を育成する。</p>	<p>② 授業等での体験活動やボランティア活動、防災活動など、生徒の参加者数を増やす実践する。</p>	<p>② 授業等での体験活動やボランティア活動などの機会が増えた。生徒は有意義な活動であったか。</p>	<p>② ・隣接した味噌製造会社に協力を仰いだ家庭科での味噌づくり体験や、吹奏楽部による地域の施設等でのボランティア、生徒による地域清掃など地域との交流や地域貢献活動、地域の教育力を生かす活動ができた。</p> <p>・地元自治会の防災訓練に今年も教員と生徒代表が参加した。災害時に加え防犯対策についても地域との連携を図るきっかけとなる。</p>	<p>② ・教職員・生徒・保護者が、自治会や近隣施設、小中学校等と各種の行事等で交流することにより、本校の教育活動に対して理解を深めてもらう必要がある。</p> <p>・地域清掃や挨拶励行など地域の一員としての自覚を高める指導を今後も粘り強く継続する。</p> <p>・ボランティア活動への参加は社会とのつながりを意識する上で有効である。参加生徒の増加を図っていく。</p>	<p>② ・地域・家庭・学校が三位一体となっており、保護者が横のつながりを強くし情報を共有することで、子どもを支えることができるので、父親のPTA活動への参加など一層の活性化を図る必要がある。</p> <p>・神大寺小学校で行われた地元の防災訓練に生徒が参加した。高校生も防災時には大事な役割を担う。これからは積極的に参加してもらいたい。</p>	<p>② ・教職員・生徒・保護者が、自治会や地域の施設等と各種行事、ボランティア活動で交流することにより、地域からの信頼が得られた。</p> <p>・地域の要望等を的確にとらえる努力とともに、教職員・生徒の参加の機会を一層増やしていく必要がある。</p>	<p>② 授業、地域の施設等でのボランティア、インターシップ、防災に関する取組などを継続・拡大し、地域のもつ教育力を教育活動に一層生かすことを考えていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 事故・不祥事防止を徹底し、教職員の協働性を高め指導力の充実を図る。</p> <p>② 防災体制の確立と防災教育の充実を図る。</p>	<p>① マニュアルや業務推進態勢の改善を図り、入学者選抜や成績処理等における事故を根絶する。</p> <p>② 防災対策や防災教育を充実させ、安全安心な学校づくりを推進する。</p>	<p>① 入学者選抜や成績処理等のマニュアルを見直し、推進態勢の改善を図る。</p> <p>② 防災対策では、特に初動態勢を見直し、地域と連携した実践的な防災教育を進める。</p>	<p>① 入学者選抜や成績処理等のマニュアルを改善し、厳正に実施できたか。</p> <p>② 初動態勢の見直し等により防災対策が改善できたか。また、地域と連携した訓練など実践的な防災教育が進んだか。</p>	<p>① ・入学者選抜や成績処理、調査書作成等に関する校内のマニュアルを見直し改善した。さらに、事前のシミュレーションや点検作業などを全職員で一斉に行うなど事故防止に努めた。</p> <p>・不祥事ゼロプログラムの実行や事故防止会議の定期的開催、新聞報道の利用等で事故・不祥事防止に向けた意識啓発・注意喚起を日常的に行なった。</p> <p>・管理職が窓口となり、教職員、保護者・生徒、地域の方からの情報提供や相談を受け、課題への迅速な対応をし風通しの良い職場となるよう努めた。</p> <p>・企画会議では学校経営上の重要課題等についての意見交換が行われ、課題解決に向けた取組みが図られた。</p> <p>② ・「学校防災活動マニュアル」を改訂し、全職員に配付・確認するとともにし、災害時の初動体制等を見直した。</p> <p>・年2回の全校防災訓練や2年生全員によるDIG（図上防災訓練）などにより、災害時の避難経路・避難場所を確認するとともに、防災意識の向上を図った。</p> <p>・全職員および1学年生徒を対象に救急蘇生法講習会を開催した。</p> <p>・緊急メール配信サービスは、生徒・保護者の登録は高い割合なので、荒天時の対応以外にも防災や不審者についての情報提供に活用できるよう備えている。</p>	<p>① ・ゼロプログラムを、各グループからの提案を増やすなどして活性化させて、一層の意識啓発に努める必要がある。</p> <p>・職員相互で声を掛け合って事故・不祥事を未然に防ぐことなどの職場の雰囲気づくりにも努める。</p> <p>・各グループで、年間計画を明確にし、また業務内容のマニュアル化を一層進めて、進行管理を円滑にできるようにする必要がある。</p> <p>・緊急の課題や重要な事項について、迅速かつ適切に対応するために、早い段階での気づき、職員間での情報共有など一層徹底していく必要がある。</p> <p>② ・単発な訓練だけでなく、継続的な防災への意識付けと日頃からの準備等が必要である。</p> <p>・災害時の学校の対応について、対応策や連絡方法などについて保護者に十分説明し、共通理解を持つ必要がある。</p> <p>・通学路の危険箇所の点検や自転車事故の原因分析などにより登下校時の安全管理の徹底に努めるとともにマナーの向上を図る。</p>	<p>① ・事故や不祥事の未然防止のためには、教員相互、教員と生徒間の意思疎通が大切である。授業や行事の様子から信頼関係が築かれているのが分かった。不断の努力で継続してほしい。</p> <p>・卒業時に、城郷高校に入学して（させて）よかったという声が多数ある。これからは地元の生徒が沢山入学してくる学校として、学習や部活動などで生徒の成長が図られる学校であってほしい。</p> <p>② ・緊急メール配信サービスは、生徒・保護者にとって有用である。不審者情報の提供などにも活用していただきたい。</p> <p>・通学路の危険箇所の点検を定期的に行う等、防災・防犯の取組みを継続していただきたい。</p>	<p>① 事故・不祥事防止の取組を継続し、教職員の意識向上に努めた。今後も、生徒に対する適切な指導、成績処理に係る点検や個人情報取扱い、交通事故の未然防止など一層の徹底を図る必要がある。</p> <p>② ・年2回の防災訓練や2年生全員によるDIG（図上防災訓練）は定着したことで、形骸化させることなく継続する必要がある。</p> <p>・教職員、生徒の防災・防犯に対する意識啓発を常に怠ることなく、緊急時の初動対応など迅速・適切に行えるよう万全な備えをする。</p>	<p>① ・職員相互で相談しやすく、気づいたことをそのままにしないといった職場の雰囲気づくりに努める。</p> <p>・改善に資するアイデアを大切にできるものから実現する。</p> <p>・入選を含め、業務のマニュアル等を更に整理し、確実に引き継いで、新しい教職員にも分かりやすく、かつ適切に進行管理ができるようにする。</p> <p>② ・地元自治会や小中学校と連携を図り、防災訓練や防犯のための巡回などに取り組む。</p> <p>・緊急メール配信サービスを不審者情報の提供などにも活用する。</p>